祝島ネット21会報

いわいしま通信

第２１号

発行日
２００７年 5月３１日

「春爛漫･お花見クルーズ」開催しました

４月1日（日）に定期船「いわい」を借り切って「春爛漫・お花見クルーズ」を開催しました。昨年に引き続き２回目の開催になります。今年は山桜がちょうど満開で、なかなかきれいでしたね。特に小山あたりの桜がすばらしかったです。参加者数は42名＋1匹（氏本さんの愛犬マキちゃん）でした。おなじみの顔、久しぶりの顔、初めての顔、いろんな人が参加してくれました。素敵な仲間達と一緒に祝島の山桜を眺めながら飲むビールは最高ですね！橋部さんの名ガイドも昨年よりも一段とグレードアップしていたようで、とても好評でした。また、今年は祝島出身の河下さん（芸名：瀬戸こうじ）の歌う『祝島賛歌』もクルージングの途中で流させていただきました。なかなかの名曲です。お花見クルーズ、来年もぜひ開催したいと思います。

出航と同時に乾杯！

私たちも楽しんでます！

満開の山桜が見れました

船内放送で橋部さんの名ガイド

目　次

お花見クルーズ	1
祝島の歴史を探る	2
花＊花クイズ	3
会員リレーコラム	4
魚・さかな・肴	5
ホクレア号がやって来た！	5
祝島懐かしの料理	6
練塀修復作業を終えて	7
先生、お元気ですか？	8
文珍師匠、祝島を満喫	9
Lets Learn English	10
祝島不老長寿パズル	11
お知らせ／読者／編集後記	12

島ネコ物語　　絵・しげむらみちこ

＜連載＞ 祝島の歴史を探る(20)　～郷土の口説 (その2)～　*蛭子 葉子*

ホクレア号が瀬戸内海を航行するという話題でもちきりの中、島で暮らす叔父が亡くなり、あわただしくお通夜、お葬式が行われました。あまりに急なお葬式に出席できなかった私はホクレア寄港をひそかに恨んでいましたが、そのいじましい感情を吹き飛ばすくらいHPに掲載されたホクレア号は神秘的で祝島海上での交流は感動的でした。その感動を受けた後では船乗りだった叔父さんはホクレア号に乗って世界の海を航海するためにいってしまったのではないかと思うほどです。

ホクレアの航海は歴史の１ページに残るすばらしい出来事で全国的なニュースとしても記録されました。記録されるものはホクレアであり、そこに共存した多くの出来事は記録されることがありません。記録されなかった出来事や人々の思い。このふたつの出来事を通じて初めて自分がここに記録しようとしたものがみえてきたような気がします。

また前置きが長くなりましたが、前号からの続きで出田政次氏の「郷土の口説」を紹介します。

祝嶋という名称が、貴重な万葉集に文献として書き残されているのは、759年前天平・宝治年中に、新羅の国へ使者が遣わされた天平八年丙子の夏に、悲しい別れの心情を、「草枕　旅行く我れを　祝嶋　幾く代ふるまで　祝い来にけん」「家人は　帰り早こと　祝嶋　祝い祀(まつ)らん　旅行く我れを」　君行く宿に霧立てば、我が旅立ちが永久に無事であれと祈った。麻里府港において帰航の途中、海上遥かに祝島を眺めながら詠んだ歌で、その頃、既に嶋の由緒である、祈りの島・祀部(はふりべ)の島として広く社会へ知られていた。

宝治２年、前中納言・定嗣卿の詠まれた歌に、「君が代を　幾く萬代(よろずよ)と　住む鶴(たず)は　祝嶋より　祝い来にけん」

宗祇法師(そうぎほうし)の詠まれた歌に、「岩畳(だた)む　祝嶋なる　岩ツツヂ　咲く時名乗れ　山時鳥(ほととぎす)」

その他の歌も数々あるが、祝嶋文化発祥を思い浮ぶと共に、太古への繋がりを考えずにはいられなくなって、未だ正確なことが分かっていない事柄を改めて考えると、紀元887年前仁和(にんな)3年8月3日に勧請した大歳神社の神舞行事伊美の宮居の神宮様が、山城の国岩清水として小深田某氏男山の八幡宮の御分霊を請けての帰り、祝嶋三浦の湾に、船路の途中、間に合わせに泊られて、民家が三軒あるのを知って、この三軒の住民たちは、原始の暮らしのままの人ばかりだったので、神の授けやその真情を教え、五穀の農耕の技術も授け導き、数年経た五年後に立寄った時、生活形姿正常のように整ったけれど、村人は伊美の宮居の神宮様の恩徳に報いたいとして、千年以上も伝えてきた神舞こそは最古の記録である。

大昔の伝説であるけれど、阿蘇の火山が眠りから醒めたように、七日七夜の大噴火の際、神舞など最古の記録、古歴を生かす品数々が灰となってしまったとの老翁の物語。嶋では一番長命の116才の角屋儀右衛門氏が書き残した蓬莱嶋の古文書も、二度の大火で焼失したとの物語。昔、蜂の尾・院の倉・三浦・通り矢・洲崎・濱の平など、そこかしこ水のある所に住居したが、阿蘇の火山が眠りから醒めて、噴火したので祝嶋の空は無くなるほど一面真っ暗に覆われてしまった。総ての尾の山がなだれ落ちて出来た久保と、海に洲が出来て、そこに初めて住いを構えた家を洲本と呼び、次から次へと住いを移した。

ここにでてくる"阿蘇山の噴火"に目が点！

一応、神舞の二つの起源説　仁和3年（887年）と仁安2年（1167年）の前後の噴火を別添に記載します。この噴火がどの程度のものであったかはわかりませんが、阿蘇山に関する資料をみると「有史以降、火口から溶岩流が流れ出た記録はありません。」「9万年前の噴火は規模が大きく、その噴火による火砕流の堆積物が海を隔てた島原、天草や山口県でも確認されています。」と書かれています。木村先生の「祝島の成り立ち」を読んでも祝島が今のような島になったのも何千年か前ということですので、それ以降の火山岩や灰の堆積はないということでしょうか。ではこの"阿蘇山の噴火"とは何を意味しているのでしょう。地学の苦手な私には科学的な根拠によるこの答えを見つけることはできませんが、"阿蘇山の噴火"を記憶する島の人達にとっての"火"や"神の火"というものの存在についての重要性を感じずにはおられません。

国文学者の益田勝実氏は『火山列島の思想』という

論文の中で「この火山列島の生活そのものが持たざるをえない風土性の問題として、その基盤の形成を考えるべきではなかろうか。神火の噴怒は繰り返され、火山灰地は人間の幸・不幸を生誕に先立って規定しつづけてきた。日本の学問はこの歴史的事実に眼をつぶるわけにはいかない。」と書き、民俗学者藤沢衛彦氏の次の言葉を紹介しています。「太古では火山はもっと活躍していたと火山学者たちは論証している。とすれば私達は火山というものにもっと関心をもつべきかもしれない。火山の爆発、その噴火・噴煙、そうしたものがただ人々の心に威圧を与えたとばかりみるのはあやまりであろう。むしろ、そこから、活動力、生命の源泉、といったものを感じとったかもしれないのである。」最後は「火山神は忘れられても、日本の火山活動が活発であった時代にマグマの教えた思想、マグマの教えた生き方は驚くほどこの列島に残っていたらしいのである。」と結んでいます。

"阿蘇山の噴火"を語り継ぐ祝島人の記憶の中にはきっと"神の火"が教えた"恐れ"や"慎み"が宿っているのでしょう。

◎協力：井上美登里（文書解析・現代語訳）

◎阿蘇山噴火の記録
864年11月 9日（貞観 6年）噴火
867年 6月21日（貞観 9年）噴火
1230年（寛喜 2年）火口異常。
1239年 2月 8日（暦仁元年）噴火
1240年（仁治元年）噴火
1265年12月 1日（文永 2年）噴火
1269年（文永 6年）噴火
1271年 1月 5日（文永 7年）噴火
1272年 4月16日，11月29日（文永 9年）噴火
1273年（文永10年）噴火
1274年（文永11年）噴火
噴石，降灰のため田畑荒廃。
1281年（弘安 4年）噴火
1286年 8月30日（弘安 9年）噴火
※867年から1230年までは噴火に関する記録がありません。

「益田勝実の仕事」は1～5巻まであります。益田氏は山口県の出身で、山口に関する記載も結構あり興味深いお仕事をされています。まだ私も初心者ですが、益田氏の論文、オススメです。

＜連載＞花*花クイズ(20)

橋部　好明

前回の花・花クイズの答えはトキリマメでした。

つる状の多年草です。茎が長く伸び、他物の絡んだり石垣をはったりしています。葉のわきから葉より短い総状花序をだし黄色の花をつけます。ちっちゃな花なので余り目立ちませんが、秋の黒っぽい実が連なっている様は、女の子に人気があって、王冠にしたり首飾りにしたりして遊んでいたようです。

わたしも一昨年の初冬に、黒い実に紅葉した葉っぱの組み合わせが面白くって、印象に残ってたので、その場所に昨年６月に行って初めてこの花に出会いました。朝日に輝く様は眩しくとてもきれいでした。

さて、今月の花の名は？
山地に生える常緑小高木の花です。
祝島では３月頃に咲きます。花が咲いているときは余り歓迎されない可哀想な花なのですが、びっしり咲いてアピールします。

これは何の花？

会員リレーコラム(21)　～ 三田　勉 さん ～

このコーナーは「祝島ネット21」の会員の皆さんに、自己紹介を兼ねて簡単なコラムを書いていただくコーナーです。第２１回目は、東京都にお住いの三田勉さんの登場です。

秋田県田沢湖高原にて。（鶴の湯湯治場）

祝島ネット21会員の皆様始めまして。私は東京都小平市に住んで居ります。三田勉、79歳（山口県下関市長府町出身）です。平成15年から会員として名簿に名を連ねてます。今後とも宜しくお願い申し上げます。入会のきっかけはマーチンさんが祝島ネット21通信の一部と入会申込書を送ってきましたので・・・祝島のことは何でも知りたい人間ですので、渡りに船と早速申込書に記入し送付しました。

まず最初に私と祝島との関係から申しますと、私の母が明治30年に祝島で生まれ、明治35年頃に一家して朝鮮の釜山市に渡り、そこで酒造業を創め、釜山高女を卒業、家業を手伝い、大正11年に山口高商を卒業し満鉄勤務していた父と結婚して終戦まで一家は中国大陸（旧満州）で暮して居りました。引揚げ後、4年目に母は病に倒れ、53歳で北九州小倉にて他界しました。母は常々、次男坊の私に祝島の話を聞かせてくれました。引揚げ後、母は一度は自分で訪れたかった祝島でしたが、望みも果たせずでしたが・・・次男坊の私はいつか祝島を訪れたいと願っていました。今から23年前に郷里長府に立ち寄った帰りに祝島に初めて念願の第一歩を踏みしめ、先祖の墓にも詣でることが出来ました。

定年後に第二回の墓参りで島に滞在中マーチンさんにお会いして、二人の交流が始まったのでした。私は現役時代、海外勤務や二十数年の外国住まいでしたので自然に話しかけ、お互いにすぐ打ち解けました。その後、マーチンさんが上京の時は旧交を暖めて居りました。彼の勧めで祝島ネット21の会員となり、皆様と縁が出来まして大変嬉しく思っております。祝島の神舞には一生に一度のチャンスを、見学出来ることを、神に祈っている今日この頃の私です。祝島に寄りました時には、一人でも多くの会員の方々にお目に掛かる日を夢見てます。皆様お体を大切に！

私が只今住んでいる小平市について紹介させて頂きます。

私の住んでいる小平市は、開拓者達が入って150～160年余りで、日光街道、鎌倉街道、江戸街道、青梅街道と街道筋に在り、水も無く、人家も無かった未開発地区でした。開発のため入村した先人達は苦労して新田を作り、街道沿いにポツリポツリと家を建て住み着きました。今から50数年前に私が土地を購入し家を建てたときは、見渡す限り農地が続き、ケヤキの大樹が街道沿いに30キロ続いておりました。しかし、現在は東京のベッドタウンとして住宅も増え、また都心からも近いためか学園都市として拓け、一橋大学（分校）、津田塾大学、武蔵野美大、警察学校、自衛隊調査学校等々あり、また武蔵野の自然も色濃く残っている所です。市を東西に流れる玉川上水（人口堀渠）は清流が流れ、ナラやクヌギの雑木林は都会に住む人達の目を楽しませてくれます。このような素晴らしい環境が近辺にあり、老後を散歩したりして過ごせる身を喜んでおります。会員の方々も、ご上京の折に時間が許せば一見の価値もあるかと思ってます。私も喜んで案内致す考えです。

＜三田　勉＞

＜連載＞魚･さかな･肴(21)　～ シイラ ～

木村 力

シイラはヤズこぎや、サワラこぎに時々釣れます。流れ藻や流木の下にいることが多いようです。時々、そのような浮かんでいるものの周りでエビや小魚を食べているのか、飛び跳ねて戯れているのを見かけることがあります。警戒心は強いようで、ヤズやサワラのように次々に釣れることはありません。

三枚におろしやすく、刺身で食べても塩焼きでもいけます。イケマで活きないので氷がないと新鮮なのを食べることができない魚です。顔つきは全然違いますが、サワラと何となく似通っている印象があります。大きくなるほどデビチンがひどくなります。

若いシイラ

サワラは鰆、シイラは魚へんに暑と書くのでもっと夏の（暖流系の）魚なのでしょう。

ヘミングウエイの「老人と海」にシイラの群れがトビウオを追って水面を切って泳ぐ様子が書かれています。鰯をつけて釣ろうとしますが、その時は釣れなかった魚です。

唐揚げと刺身

ホクレア号がやって来た！

國弘 秀人

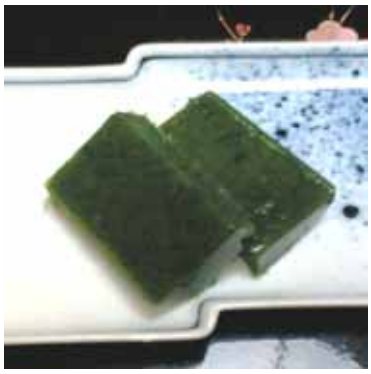
5月20日、祝島沖にホクレア号がやって来ました。古代ポリネシアの遠洋航海カヌーを復元したホクレア号（ハワイ語で“幸せの星”という意味です）。ハワイの伝統文化復興を目指して30年前に建造されたホクレア号はハワイの人々に誇りを蘇らせ、今や平和と希望を象徴するシンボルとして地球を旅しています。今回の日本への航海は、日系移民がハワイにもたらした貢献に感謝するため。今年1月にハワイを出発し、約4ヶ月かけて日本にやって来た彼らの旅の安全を祈るため、祝島では櫂伝馬を出して歓迎しました。ホクレア号のクルー・櫂伝馬の若者達・シーカヤック隊・そしてチャーター船に乗って来た子供達が祝島沖で交流。文字通り“一期一会”のすてきな出来事でした。

感動的だったホクレア号との交流

＜連載＞『聞いてみん菜･食べてみん菜』

祝島懐かしの料理(17)　～ よもぎ羊羹 ～

祝島食べてみ隊



夏休みの祝島で父方母方の両祖母が作ってくれたり、子供の頃に母が作ってくれたものを懐かしんで、またそれを心に刻みたいとの思いで始めた「食べてみん菜」でしたが、もともと祝島に育っていない我々には思いつくもの、思い出すものが祝島独特のものなのか、どこにでもあるものなのか、また１家庭の中だけで作られているものなのか区別がつかず、また知らないこともあまりに多くて恥のかき捨てをしておりますが、かの芭蕉曰く、「行きかう人もまた旅人なり」と、恥はかき捨ててよいのだとおっしゃってますから、安心して我が勝手でだらだらと続けております。が、それもそろそろネタ切れで、さてどうしようと思っていたところひとこと耳に飛び込んできました。

『よもぎ羊羹を自分でつくってみんさい』・・・！

そこで、最近ちょっと忙しかったのでどうやって手抜きをするか（これだけは得意です）をテーマにして作ってみました。

＜材料＞

よもぎ、白花豆、砂糖、寒天・・ですが、ここでは既に以前（たぶん去年）によもぎ饅頭を作ったときに湯がいておいた冷凍よもぎを解凍して使いました。

また白アンを作るのも豆からでは大変ですので煮豆を買いました。

＜作り方＞

① 寒天を水に漬けておく

② 白花豆の煮豆をつぶし、裏ごしする（我が家には裏ごし器がないので、大きい網しゃくし・・・ざるを使いました。）

皮がなかなかきれいにとれませんので、水に漬けながら皮を取り除きます。

③ 皮を取り除いたアンを火にかけ、よくかき混ぜながら煮詰めます。

④ ①の寒天を火にかけ、とかします。

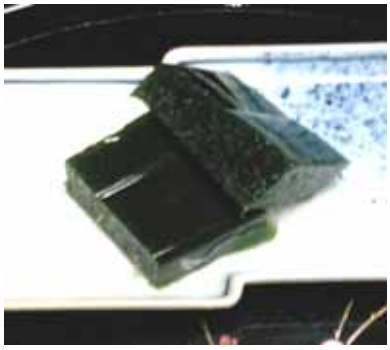
⑤ よもぎをすり鉢で細かくなるようにすります。

⑥ ③に④のよもぎと好みで砂糖を加えてよくまぜます。

⑦ 型に流し込み、冷めたら冷蔵庫に入れて冷やします。

もう一点、白花豆を入れずに作ってみたところ（堅いよもぎ寒天）、色が鮮やかに緑で透明感があってきれいでした。味もなかなかよかった。

分量をまったく無視して作ったので、ここに書くことができないのですが、どうもよもぎが多すぎたようです。また、よもぎをすりつぶすのが足りなかったようで、繊維がかなり残ってしまいました。また、よもぎの香りがなくなってはいけないとあまり煮詰めなかったので、練りが足りないようでした。それでも香りのよいおいしい（？）よもぎ羊羹の出来上がりです（＾_＾）。母の申すに、「よもぎは祝島のでなくっちゃ！」と。香りが違うそうです。



作ってみて、手抜き羊羹と言えど、なかなか大変でした。やっぱりよもぎ羊羹は祝島で買いましょう！

練塀修復作業を終えて

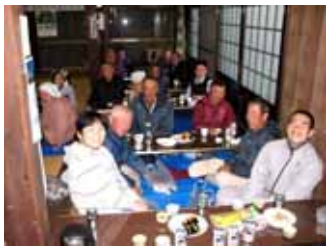
橋部　好明

２００７年1月２１日の練塀フォーラムを終えた後、事前準備を重ね、いよいよ修復作業に取りかかったのは2月の3日でした。少し風はありましたが冬晴れの清々しい朝でした。

「午前１０時頃から取りかかりますから協力して」と頼んでいた島の人達。もう8時前から集まりだして、どこからやるのかと嬉しい催促。山崎家の練塀にまず取りかかりました。5・6人くらいかなぁと思ってた祝島のボランティア。いつか増えて一時１７名も。外からも１１名も来てくれました。２５個準備した弁当が足りないなとヤキモキ。嬉しい誤算でした。

作業は古い漆喰やモルタルで補修していたのを取り除き、下地を調える事から始まります。島の人の息のあった作業で、短時間で終了。島外ボランティアが大挙集まったところで下地塗りの開始。ズラリと20名余が並んだ様は壮観でした。三日はかかるだろうと思ってた作業がもう3時には終了。おでんの差し入れもあり、あとは交流会。１週間後の漆喰塗りへの協力をお願いして一日目は無事終えました。

修復作業は節目節目の大人数の作業日が全て好天気で、順調に、しかも早いピッチで進みました。計画外の作業も途中入りましたが、大勢のボランティアの協力で当初計画の3.5倍の修復を終えることが出来ました。延２６５m、約４００平方㍍、ボランティア延２５５名。うち島内ボランティアは１９０名。善徳寺、光明寺、照満寺とお寺の塀も修復したのですが、大勢の門徒さんが集まってくれて、広い塀もあっという間にリフレッシュしました。



ボランティア同士の交流。炊き出しの人との交流。寒い中、早朝から起き出して5回も6回も来て下さった方。ご夫婦で参加、今日は旦那は置いてきましたと言って、笑いを誘った方もいました。マスコミも度々取り上げてくれて、お陰で盛り上がりました。地元が頑張れば、ボランティアが集まります。並んで作業しながら、新しく来たボランテイアに練塀自慢してるのを聞いて、価値観を共有できた喜びも感じました。

去年の夏、大阪自然教室の子供達を案内した時のこと。練塀の石を指さしては、「これはネ、1億年も昔に地下で固まった石だよ」と自慢していたら、「おじちゃん、この穴は・・？」と小１くらいの男の子。「ん～！」絶句したことを思い起こしながら修復作業しました。「来年夏に来たときは直しておくからね」との約束を果たしたのは、3月２１日でした。

これからは、練塀観光に訪れた人たちを案内しても、大きな声で案内できます。皆さんご協力ありがとうございました。

＜連載＞ 先生、お元気ですか？　(第2回)　　～ 真方 ヤヘコ 先生 ～

このコーナーには、かつて祝島小学校・祝島中学校で教鞭をとられた先生方にご登場いただき、当時の思い出や最近のご様子などを紹介していただこうと思っています。第2回目は40歳代以上の祝島出身者なら誰でもご存知の真方ヤヘコ先生にお願いしました。

祝島小学校時代の真方先生（中央）

「祝島を想う」

真方ヤヘコ

第二の故郷祝島。祝島の皆様お元気でございましょうか。昨年二十年ぶりに祝島を訪れる機会を得まして、ほんとうに嬉しく涙がこぼれました。昭和三十年に祝島小へ赴任いたしまして、私にとって人生の一番有意義な時を過ごした様に思われます。

祝小へ行くまで四校を廻りましたが、都市・田舎の小学校であり、それでもそれぞれ特色があり風習があって、いづれも楽しくその土地になじむことができ、楽しかったような気がします。

校長先生から、「熊毛郡と大島郡の小学校があるのだがどちらにしますか？」と聞かされ、徳山市以東は余り知らないので、随分遠いとは思いましたが「熊毛郡にします。」と答えました。熊毛郡祝島小学校と聞いてすぐ地図を開いて見ると、瀬戸内海にポツンと浮かんでいる小島でした。ヨシッ、大きな島でも小さい島でもそこには人がいて、大人・子どもがいる。そこには、広い空、広い海があり、その空間で生活をしている人がいるんだ。その人達の生活を想像して楽しくなりました。

いよいよ室津港より乗船したものの海ばかり、船はマスト一本が立っていて客室は船底にありました。お客は二、三名で途中の港で降り、私と他に一人だったようです。船窓に見えるのは船に当たる波ばかり、丁度通りかかった船員さんに「祝島はまだですか？」とたずねると、「まだまだ、この島がなくなると見えます。」と聞かされ、すっかり落ち込んで「しまった、祝島に行くと今言わんにゃよかった。大島郡にすると言えばよかった。島も大きく連絡船も大きいのに。」と後悔と不安がつのり、涙がこぼれました。すると、長い島を外れた途端に目の前に白亜の建物が現われ、それが祝島小学校、中学校と解り、今度は勇気と安心が湧き上がりました。今までの学校は何れも戦前の木造で古い校舎で、白い新しい近代的な学校を見て、こんな学校があるんだ、と嬉しくなり、私の力のある限り、島の学校の教育に尽くしたいと思いました。

船上から見る家々は何れも石土塀に囲まれ、しっかりとした屋根瓦が見え、初めて見る風景に驚きました。いろいろ想いを巡らせているうちに波止に着き、そこには余り人影も無く、三、四人の若い衆が真っ白いワイシャツを着て船を待っていらっしゃったので、てっきり学校からのお迎えの先生かなと思っていたら違っていました。後で解ったのですが漁師の方でした。初めて会った方達で、いろいろ島の話を聞き教えていただき、ほんとうに幸せました。

学校はちょうど運動会の予行練習で先生方もお忙しく、しかも私が次の日に来るかと思って出迎えにも行かなかったと、大変校長先生が謝ってくださいました。

祝島に着いた翌日から祝島の人になりました。学校では二年生の受け持ちです。今まで余り低学年を持った経験がなかったのですが、教室に入るとまともに前を向いて勉強する子どもは少なく、ガヤガヤとおしゃべり、立ち歩く者など。がっかりしましたが、この子達に負けてたまるかと意欲一杯。どの子にも声をかける、ほめてやることに努力しました。

すぐ近くに文房具店があり、一番やんちゃの男の子に、ノートを買って来てと頼むと、快く「先生、米か？麦でえ？」私は「米麦を買って来るんではないよ、帳面を買って来るの。」子どもは納得がいかないので何べんも繰り返し、とうとう昼食になり、宿の奥さんにこのことをたずねると、当時は安いノートは麦色の紙と、白い紙のノートと二通りあって、普通高い方を使わないで安い麦の方を使っていました。意味が解って私の負け。今も印象に残っている一つです。

また、学校で友達を呼ぶのに、ほとんどの者が呼び捨ての状態、これにもびっくりしました。家で呼ぶのは親しみがあっていいのですが学校と家のけじめをつけるために、○○君（男子）、○○さん（女子）と統一した呼び方を、ある程度強制的に呼ばせると、いつの間にか全校が呼ぶようになり嬉しかったです。

いっぱいの思いで、限られた紙面では書ききれません。祝島の皆さん、ほんとうにお世話になりました。ご健康とお幸せをお祈りします。

昨年５月に祝島を訪れた時の真方先生

文珍師匠、祝島を満喫

橋部　好明

連休明けの5月9日、夕方の定期船の乗客が「文珍さん、文珍さん･･･」とつぶやきながら小走りに降りてくる。最後に降り立った人を見て、船着き場付近からどよめきが起きた。「本物だ！」という声も。にこやかな笑顔、ちょっと見渡してゆっくりと歩を進めます。光明寺の石段に腰掛けてたおばあちゃん二人。文珍さんが近づいてきたら慌てて逃げ出しました。苦笑いしながら、今回の宿、はまや旅館の方に。今日は超大物が来るというので、興味津々、待ちわびた人たちから歓声が上がりました。

サテ、文珍さん、やおら取り出した写真でなにやら質問。覗き込んではみんな首振ってる。分らないらしい。ワイワイ言ってる様が面白いので写真撮っていたら、ひとりが私を見つけて手招き。私は何かが分っていたので、笑ってたら、「早く早く来て」と大声。そして渡された写真を見ていたら文珍さんが近づいてきて、「これ分りますか？」40年位前のカタイの田圃の写真。「今は畠になって野菜を作ってますよ」「どの位距離がありますか？」「約2キロ」「どうしたら行けますかな？」「野草がいっぱい花付けています。ウォーキングを楽しまれたら･･･」「あなたは祝島の人？」「はい、生まれも･･･」

帰りの定期船の乗ろうとしてた人たちが、競って記念写真。賑わった夕方の一時でした。

今回の祝島紀行。NHK-BSハイビジョンの「こんなステキなにっぽんが」の取材ロケ。ナント、三泊四日の異例の長逗留。田圃を訪ね、平さんの石垣棚田、練塀と巡り、民家や学校を訪問したりと、祝島をたっぷり楽しまれたようです。さすが話の大家、派手なパフォーマンスもなく、終始柔和な顔で巧みな話術で周囲を和ませておられたのが、特に印象的でした。（桂文珍師匠、さん呼ばわりでゴメンナサイ）

放送予定は6月30日PM7:20の予定とか。BSハイビジョン放送の見られる方はどうかお忘れなく。

Let's Learn English in Iwaishima !

岸本　智恵美

Part1.　Dennis's first visit to Iwaishima (19)

I enjoyed the Hanami Tour by ship on April 1st.
I was impressed that the cherry blossoms were very beautiful.

（4月1日の船上花見ツアー楽しかった。桜がすごくきれいで感動したよ。）

I realized that so many cherry trees were in Iwaishima.
When I saw some obachan taking clams in Miura Beach, I thought what a luxury situation it is ! As taking natural clams, they can enjoy a lot of beautiful cherry trees. How wonderful !

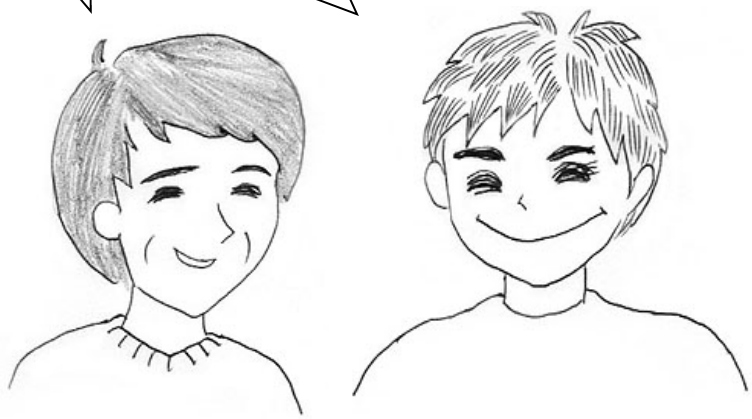
（祝島に桜がいっぱいあるのがよくわかったよ。三浦の浜でおばちゃん達がハマグリを採っているのを見たときは、何て贅沢な景色だろうと思ったよ。
なぜなら、おばちゃん達は天然のハマグリを採りながらきれいな桜を楽しむことが出来るんだもん。いいよね。）

Yes. They are so powerful and incredible !
Anyway I'm very happy to promote the 2nd Hanami Tour this year, too.

（それいで。おばちゃんパワーはすごいんで。
とにかく、今年も2回目の花見ツアーが出来てよかったいで。）

Of course ! You were a nice guide.
I had a lot of fun !

（本当だね。いいガイドでしたよ。楽しかった。）

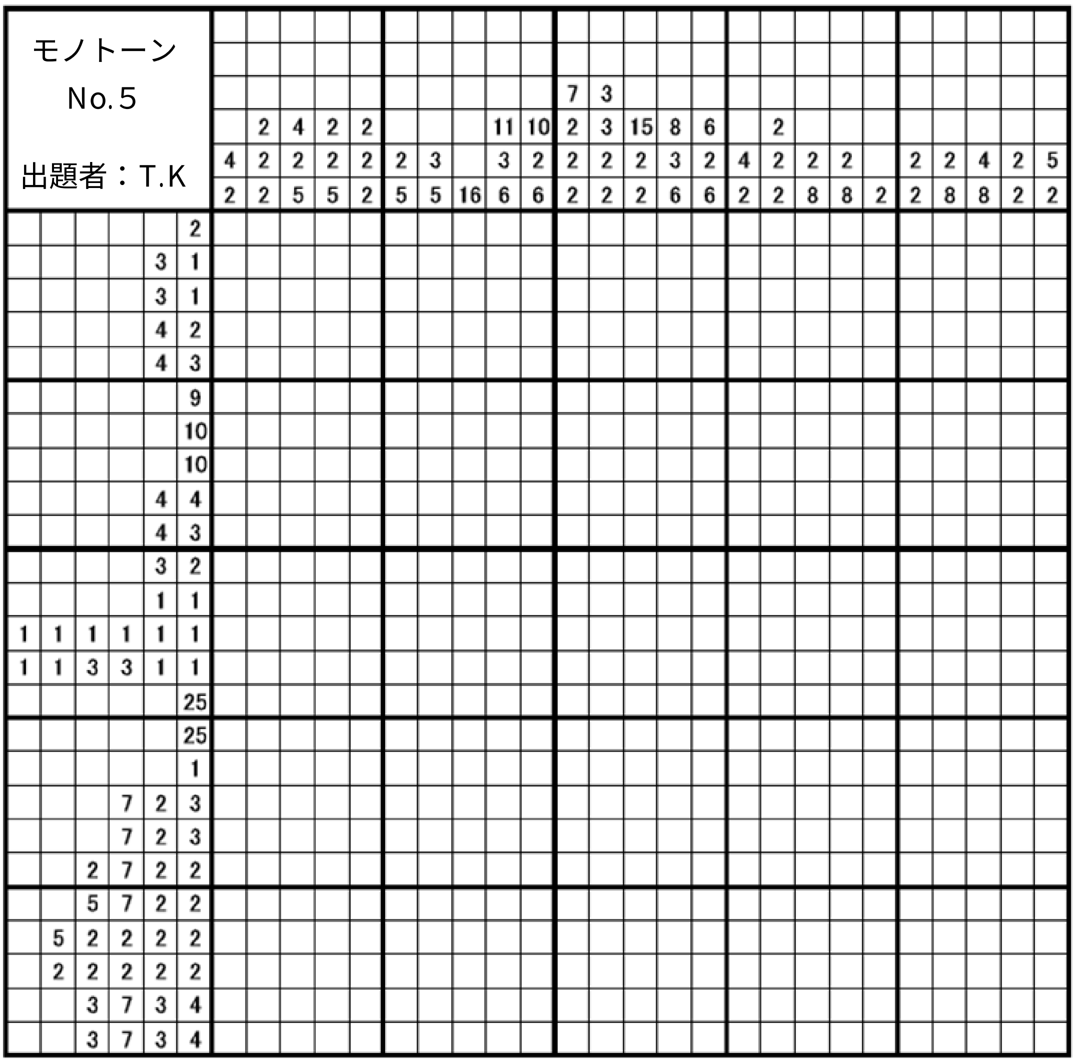


Hashibe-san
（橋部さん）

Dennis
（デニス）

祝島不老長寿パズル

前回のモノトーンパズルの答えは「祝島中学校の校章」でした。皆さん解けましたか？　今回のパズルはＴ．Ｋさんの出題です。ヒントは「海・風・星そして祝島」です。皆さんぜひチャレンジしてみて下さい！



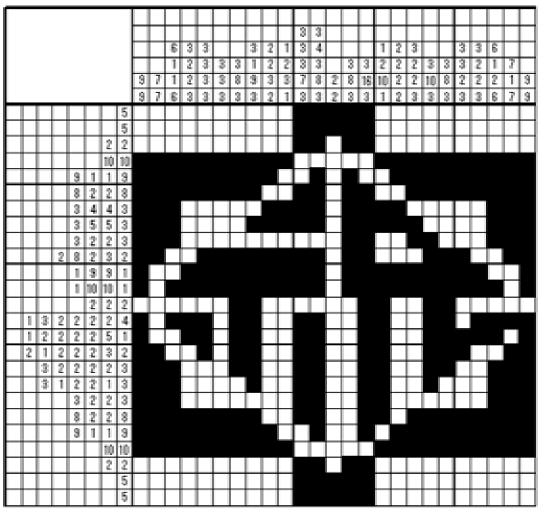
★モノトーンパズルのやり方

①上と左の数字はタテ、ヨコその列で連続して塗りつぶすマス目の数を示す。

②二つ以上数字が並んでいる場合は、並んでいる順番通り、左は左から、上は上から、数字分だけマス目を塗りつぶす。

③塗ったマス目とマス目の間は１マス以上空ける。

※大きい数字のところから手を付けていくのがコツです。



前回のパズルの答えは「祝島中学校の校章」でした。

読者の声

◎表紙の「島ネコ物語」、いつもユニークで、ニンマリしてしまいます。祝島弁がいいですね。これからも面白い漫画を期待しています！

◎橋部さんの花の写真、毎回楽しみにしております。そのうち祝島植物図鑑を出されてはどうですか？(~o~)

※お願い
「読者の声」にもっと皆さんの声をお寄せください。投稿は、祝島ネット21のホームページからできます。郵便での投稿もOKです。皆さんの声で、もっと楽しい紙面を作っていきましょう。

お知らせ ＆ 募集

■第6回祝島不老長寿マラソン開催のお知らせ

恒例となりました「祝島不老長寿マラソン」を8月12日（日）に開催いたします。今年はお盆休みに付けやすい日程だと思いますので、ぜひたくさんの方の参加・ボランティアを期待しています！

＜第6回祝島不老長寿マラソン募集要項＞

◎開催日：平成19年8月12日（日）
◎種目：13kmの部、2kmの部
◎参加料：13kmは3000円、2kmは2000円
◎募集人数：約150名
◎参加申込み締切り：7月14日（土）必着
◎申込先：
〒742-1401　山口県熊毛郡上関町祝島
マラソン実行委員会事務局
◎問合せ先：
國弘秀人（Tel 090-8069-5066　Eメール kunihiro@iwaishima.jp）
◎大会ホームページ：http://www.iwaishima.jp/marathon/
※参加申込書は大会ホームページより印刷できます。
※ボランティア希望の方は國弘まで連絡ください。

■会報の発行月が変わりました

今回より会報「いわいしま通信」の発行月が１ヶ月ずれて、2月・5月・8月・11月に変更になりました。各発行月の月末が発行日になります。

編集後記

お待たせしました！会報21号がようやく完成しました。4月は年度初めのため、コラムを書いてくれている皆さんは多忙な時期で、毎年大変だったのですが、今年は特にいろいろなイベント等が集中していたため、思い切って発行をひと月遅らせました。すみません。で、ついでに考えてみたら年4回の発行月は全てずらした方が、比較的時間に余裕がありそうな感じなので、そうさせていただくことにしました。1ヶ月遅らせたおかげで、文珍さんの祝島訪問やホクレア号との交流といったホットな話題も掲載することができました。それにしても、このところ祝島はメディアへの登場頻度が高いですね、もしかしたら山口県内で今一番話題豊富な場所じゃないかという気もします。祝島ネット21の活動も、その一翼を担っていることを誇りに思っています。

さて、連載2回目になる“先生コーナー”、今回は皆さんご存知の真方先生にご登場願いました。先日も同窓会によばれて祝島に来られていたようです。いつまでもお元気でいて欲しいですね。“イギリスだより”担当のマーティンさん＆あすかさんは、現在、上関に戻っていますので、連載はしばらくお休みになります。

さて、次回の会報はマラソンの後、8月の発行予定です。お楽しみに。　（編集長：國弘秀人）

※事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。投稿はホームページからも可能になっておりますので、ご意見・ご感想・リクエストなど、お気軽に投稿してください。
※祝島ネット21では随時会員を募集しています。会費は1年間6000円です。
入会ご希望の方は事務局までご連絡ください。

《発行》　祝島ネット２１事務局
〒742-1401　山口県熊毛郡上関町祝島
ホームページ　http://www.iwaishima.jp/inet21/

ホクレア号歓迎イベントでは二代目龍丸が大活躍しました